産学連携学会メールニュース
J-SIP Mail
発行：産学連携学会（編集 WG）
第 960 号 ＜2018.12.10＞

当メールニュースではイベントのお知らせや公募情報等、
産学連携に関する情報をお流しいたします。
会員の皆様への情報の配信をご希望の方は、news@j-sip.org
あるいは産学連携学会事務局（j-sangaku@j-sip.org）までお寄せください。
バックナンバー：http://www.j-sip.org/mail_news.php

[[[[　ヘッドライン　]]]]

（参加費を”無料”に変更しました）
【秋季シンポジウム：ゲノム編集の実現と倫理的課題等】

平素より大変お世話になっております。
産学連携学会と東京医科歯科大学では、12 月 21 日にゲノム編集技術の実現に
向けた倫理的課題をトピックスにした秋季シンポジウム＠東京医科歯科大学
（参加費：無料）を開催いたします。
此のほど、中国の研究者が受精卵にゲノム編集を行い双子を誕生させたと
発表した問題で、関係学会等が非難声明を発表する等議論をよんでいる
ところですが、本シンポジウムでは、ゲノム編集技術の必要性や倫理面含む
課題等にもフォーカスし当該領域の第一人者の講師をお招きし、ご講演
いただきます。

なお、本シンポジウムは、当初有料開催である旨ご案内をさせていただいて
おりましたが、頃来、大変注目される重要なテーマであることを踏まえ、
当該技術の必要性や科学的妥当性をオープンな場で共有するために、
会員・非会員問わず、無料開催に変更させていただきました。
奮ってご参加賜りたく、お願い申し上げます。

産学連携学会×東京医科歯科大学　合同主催
特定非営利活動法人産学連携学会　平成30年度シンポジウム
「産学官連携による革新的イノベーションの可能性～ゲノム編集技術の実現に迫る～」

【開催日時】平成30年12月21日(金)13：00-17：30

【開催場所】　東京医科歯科大学　湯島キャンパス
M&Dタワー　2階　鈴木章夫記念講堂
（〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-4）
http://www.tmd.ac.jp/outline/access/

【参加費】※参加費　無料
意見交換会：4,000円″

【プログラム】

13:00-13:05　開会挨拶
東京医科歯科大学　理事・副学長(産学官連携・研究担当)　渡辺 守

13:05-13:15　来賓挨拶
文部科学省科学技術・学術政策局産学連携地域支援課長　西條 正明

13:15-13:25　趣旨説明
産学連携学会長（静岡大学 理事）　木村 雅和

13:25-14:10　講演1
「立体構造に基づくCasタンパク質エンジニアリングと医療応用を目指したゲノム編集ツールの開発」
東京大学　大学院理学系研究科 生物科学専攻　教授　濡木　理

14:10-14:45　講演2
「遺伝子改変技術を用いた遺伝子細胞治療の現状と今後の展望」
国立研究開発法人国立成育医療研究センター
成育遺伝研究部　部長　小野寺 雅史

14:45-15:00　休憩1

15:00-15:35　講演3

「PPR 蛋白質を利用した DNA/RNA 編集技術の開発」
九州大学大学院農学研究院
准教授・エディットフォース株式会社代表取締役　中村 崇裕

15:35-16:10　　講演 4
「ゲノム編集技術の社会実装に向けた知財戦略
ー内閣府 SIP プロジェクトの試みー」
内閣府 SIP ゲノム編集プロジェクト　知財戦略担当・
（業）セントクレスト国際特許事務所 弁理士　　橋本一憲

16:10-16:55　　講演 5
「遺伝子改変技術の農業と医療への応用：倫理的、社会的課題」
北海道大学　安全衛生本部　教授 石井 哲也

16:55-17:10　　休憩 2

17:10-17:35　　講演 6
「起業支援の現場から見たゲノム編集技術への期待」
バイオ・サイト・キャピタル株式会社　専務取締役
JST START 事業プロモーター　　福田 伸生

総合司会：産学連携学会副会長　飯田香緒里（東京医科歯科大学　教授）

●申し込み方法：

下記サイトからお申し込みください。
URL：https://kokucheese.com/event/index/542726/

※上記 URL からのお申し込みができない方は、
下記ご記入の上、FAX または E-mail（j-sangaku@j-sip.org）
にてご送付下さい。
〇御 氏 名（ふりがな）　〇所　属
〇役　職　　〇ご連絡先（TEL、E-mail）
〇シンポジウム 参加・不参加
〇意見交換会　参加・不参加
〇会員・非会員の区分
申し込み日限：平成 30 年 12 月 14 日（金）

●お問い合わせ

産学連携学会本部事務局（担当：箕輪・須藤）
TEL：080-4203-5165　FAX：042-490-5727　E-mail：j-sangaku@j-sip.org

参考：開催趣旨

″近年、ゲノム編集の技術は急速に発展し、病気の治療や診断はもとより、農作物の品種改良等、我々の生活に大きな影響をもたらす技術として注目され、実用化に向けた取組みが加速している。
その契機となったのは、ゲノム編集技術の中で第三世代とされる「クリスパー・キャス・ナイン（CRISPER-Cas9)」の登場といえる。
従来のゲノム編集手法と比べ特定のDNAを狙った操作が可能であり、簡便かつ効率的に目的遺伝子を改変できるようになった。
しかし、その利用・応用への期待が大きくなるに連れ、生命や健康、自然環境への影響、食の安全等への配慮、生命倫理をめぐる議論も活発となり、内閣府が本年６月にまとめた「統合インベーション戦略」でも法制度上の取扱いが要請されている。
本シンポジウムでは、ゲノム編集分野の最前線で活躍されている専門家をお招きし、ゲノム編集技術の最新の研究開発状況や実用化に向けた展望、知財を巡る課題や倫理的社会的課題を紹介いただく。
これにより、ゲノム編集技術の研究開発に取り組む、または興味を持つ大学、研究期間、企業、政府機関にとって有益な情報収集の場とする。″

以上